

簡単！「小テスト」を作成・活用してみませんか①

～小学校の歴史学習の評価（知識・理解）～

歴史のテストというと、年号、人名、出来事等を暗記していれば対処できるというイメージが強いと思われます。

そこで今回は、知識を単に問うのではなく、歴史上の人物の働きを中心に、人物と歴史的事象とのかかわり等についての理解度を評価する「小テスト」の作成例を紹介します。

〈聖徳太子の働きを中心とした「小テスト」の作成例〉

『小学校学習指導要領』では、6学年の歴史学習の内容について、「2 内容の(1)」で、アからケの九つを示しています。下に示したのは、イの内容です。

イ 大陸文化の攝取、大化の革新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること。

(※下線は筆者)

上記下線部は、聖徳太子が政治を行ったころから京都に都が置かれたころまでの時期のうち、大陸文化の攝取、大化の革新、大仏造営の三つの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、天皇を中心とした政治が確立されたことが分かるようにすることをねらいとしています。

このねらいに対する子どもの学習状況を評価するための一つの手段として、次のような、聖徳太子を基準にして歴史的事象の前後関係を問う小テストを作成・活用します。

〔問題〕 次のことがらのうち、聖徳太子が生まれる前のできごとに（前）、聖徳太子が生きている間の出来事には（○）、聖徳太子がなくなつてから後のできごとに（後）と書きましょう。

- ① () 中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏をたおす
- ② () 冠位十二階が定められる
- ③ () 遣隋使を送る
- ④ () 聖武天皇が位につく
- ⑤ () 日本最大の古墳「大山古墳」がつくられる
- ⑥ () 法隆寺が建てられる
- ⑦ () 奈良で大仏づくりが始まる
- ⑧ () 十七条の憲法が定められる
- ⑨ () 女王卑弥呼の邪馬台国が栄える
- ⑩ () 仏教が中国から伝わる



この小テストは、一見簡単にできそうですが、歴史的事象を「だれが、何をした」というレベルで、バラバラの知識で暗記していた子どもにとっては難しい問題です。

一方、聖徳太子の働きを、歴史的事象及び天皇中心の国づくりの時代推移とのかかわりでとらえている子どもにとっては、容易に解答できる問題です。

また、この小テストは、子どもの定着度を確認する際の評価方法の一つとして、単元及び学期・学年末の総括的評価等、様々な場面で活用することができます。

なお、小学校における歴史学習の授業実践に当たっては、以下のページを参考にしてください。

「小学校における歴史学習の工夫①」～授業改善のポイント～  クリック

「小学校における歴史学習の工夫②」～史料の「裏側」を読む～  クリック



この小テストの問題形式は、他の時代・人物でも応用して簡単に作成することができるので、ぜひ試してみて下さい。

小学校では、教材会社等の既成のテストを用いて評価することが多いと思われますが、教師がテストを自作することで、子どもに身に付けさせたい内容が明確となり、指導と評価の一体化を図ることができます。

また、テストに対する愛着が生まれ、評価者として、テストを積極的に活用することにもつながります！